

令和元年度 第2回湖北圏域地域医療構想調整会議事録

日 時：令和元年11月25日(月) 18:00～19:45

場 所：湖北健康福祉事務所（長浜保健所） 2階 大会議室

出席委員：◎手操委員、若森委員、弓削委員、神田委員、納谷委員、松岡委員、竹岡委員、宇田委員、江畑委員、且本委員、堤委員、嶋村委員 ◎議長

代理出席：塩見尚礼氏（楠井委員）、鈴木茂喜氏（永田委員）

欠席委員：森上委員、澤渡委員、北川委員

傍聴者：26名

事務局：長浜保健所（鷺田次長、他関係職員）

開会宣言 18:00

挨拶：長浜保健所 嶋村所長

議 事

議題1 域地域医療構想の進め方にかかる国の動向について

〈概要〉

事務局から、地域医療構想の実現に向けて国が公表した「具体的対応方針の再検証の要請」に関する背景と概要について説明し、委員からは、該当病院の圏域内での役割機能について改めて確認した。その上で、病院機能を含む地域包括ケアの推進について、圏域内合意を図りながら継続協議していくことを確認した。

事務局より、資料1、2、3を用いて説明

（議長）事務局報告のとおり、公立公的病院の診療実績等を分析し再検証を要する病院が公表されたが、資料2・3にあるように、湖北では圏域としての合意を図りながらすでに協議を進めている。圏域北部での一定の役割を果たしている病院として、意見をいただきたい。

（委員）今回はこのような発表に当院の名前があり、地域の皆様に、大変ご心配とご迷惑かけましたことをまずはお詫び申し上げます。

その上で、この地域医療構想調整会議の中では、病院機能の役割分担ということで、我々は話を進めてきており、地域医療のセーフティネットの役割を果たすケアミックスの病院として、へき地医療拠点病院として、北部圏、市中心部から通院に60分以上かかるような地域での急性期医療も我々が提供しており、今後も担う必要性があると考えている。

その上で、ケアミックスの病院として、市から受託を受けた地域包括支援センターを院内に開設、医療と介護福祉サービスを総合的に提供する、地域包括ケアシステムの拠点として新たな活動を進めているところである。

医療から介護まで、北部圏内で賄えるようにしたいという考えであり、またダウンサイジングもすでにこの会でも検討し、昨年度末に13床減らしている。

ダウンサイジングも含め、圏域内での機能役割を踏まえた当院の在り方を考えていきたいとしているので、ご理解のほどよろしくお願ひしたい。

（議長）再検証の要請とされた全国424の病院の内容とは全く別に、地域医療構想の実現に向けて国としても必要な支援を検討しているとのことだが、この支援について情報があれば説明を。

県医療政策課から、「医療機能の分化・連携に向けた具体的対応方針に対する病院支援事業」について説明

(議長) まだ予算要求の段階で国会の審議も先だが、スライドの図では、全国で10か所とあり、湖北圏域では少しずつ進んでおり、また、県全体の調整会議が12月に開かれる中でも、このような情報は入ってくるのではないかと思う。県の支援は重要なこと。保健所長の委員から発言を。

(委員) 現場を預かる保健所としては、地域の議論・進め方を中心に置き、それを深めていくために、国の支援を活用すると考えている。

国からの突然の病院名公表があったが、知事も、今回の分析に関しては誤解を招くという危惧・違和感を示したうえで、県においては7医療圏でしっかり議論を進めていくと発言している。

今後、国の再検証要請や、重点支援対象区域の設定など、具体的な動きがあると思われるが、湖北圏域においては、これまでの議論の積み重ねをもとに、これを深めていく方向に変わりはないと考えている。

重点支援対象区域の設定については、都道府県の意向を踏まえるとされている。湖北圏域では、病院機能の再編イメージ図を目標としており、それをブラッシュアップすることを条件とするなら、重点地域として支援を受けられる形も考えられる。統廃合などの誤解を招くようなことは絶対避けるべきと思う。

(議長) 国の支援としては、地域の実情を踏まえたうえで、全国で10ヶ所を支援の対象としていく方向とのことです。

議題2 湖北圏域の目指すべき医療提供体制について

- ① 高度急性期急性期医療にかかる3病院の動き、今後の見通しについて (資料4)
- ② 診療所機能の再調査結果等について (資料5)
- ③ 米原市の地域医療提供体制について

(概要)

湖北圏域の医療提供体制にかかる協議内容やその進捗状況に関して、3人の委員から情報提供がされた。

①高度急性期急性期・回復期・慢性期医療の提供体制にかかる3病院での検討の動きについて長浜市より、②在宅医療の推進にかかる動きについて医師会より、③市における地域診療所の体制協議の動きについて米原市より、それぞれ委員から報告があり意見交換がされた。

(議長) 議題(2)の①の情報提供を。

(委員) 3病院の取組として、地域医療構想調整会議(3月11日)以降の動きを報告する。(資料4)

1点目、病院機能再編の実務的検討のため、3病院の事務部長で構成する事務局会議を原則、毎月開催している。

2点目、3病院の事務局職員間の病院経営に関する相互理解を深めることを目的に、院内での研究と合同の勉強会を、3回開催している。

3点目、昨年度まとめた「湖北地域の高度急性期、急性期医療考える研究会報告」の概要パンフレットを、7月に各医療機関、市のまちづくりセンター等に配布をさせていただいた。

4点目、病院連携に関する勉強会を開催した。全国の先進地事例や新しい病院像の検討について、各病院長もご出席いただき、2回開催した。

これらを踏まえ、病院の連携に関し、それぞれの病院の中で、湖北医療圏における新たな病院像の検討を行い、今後は、各病院の検討結果をもとにして、3病院の協議に入っていくということ

確認させていただいた。

新しい病院像の検討にあたり、その考え方としては、資料を参考にさせていただきたい。

とりわけ、P2には、9月に発表された厚労省の代替可能性のある医療機関同士の協議を、国が一定求めてきていることが示してあり、P3には、2024年から実行される医師の働き方に関する規制を踏まえ、これから懸念される事項として、大学病院側での規制、日勤帯医師への勤務制限等が今後大きく影響してくることが示されている。

これらの背景のもと、圏域の中で新しい病院像を作っていくということを、3病院で議論していることとなった。そのたたき台に必要な基礎知識として、地域医療の経営環境もしくは経営体について、様々な全国事例を含む勉強会を開催させていただいた。

いずれにしても、この圏域に即したあり様を、誰に言われる事もなく作るということが基本であるので、この議論を今後も進めていこうとしている。

(議長) 病院事務局サイドでも協議をいただいているということと、「湖北の高度急性期、急性期医療を考える研究会報告」で、わかりやすく分析していただいたということ。住民の方への周知についても、こういう形で配布していただいているということは非常にありがたい。

続いて、②の診療所機能の再調査結果等について資料5で、報告する。

(委員) 湖北医師会の中に、長浜米原地域医療支援センターがあり、行政からの委託を受け、医療資源の把握は、役割の一つとなっている。

切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進ということで、再調査を行い、在宅医療実施診療所については、同意のあった医療機関を一覧表にし、長浜米原地域医療支援センターのホームページに挙げている。

前回調査と比較すると、実は在宅医療に取り組んでいる診療所が10ヶ所前後、減少している。その要因として、回答率が約8割で、まだ報告いただいていない診療所があることや、報告のあった診療所の中でも、先生の死亡や体調不良などがある。

また、自身は国保診療所を退職し、後任の医師に、もう一か所の国保診療所と機能的に一つとなってやっていくことを提案し、いい形で引き継いだ。二か所の診療所で、訪問診療を一元化する形とし、機能を強化した。同様に、市の北部でも2つの診療所を一か所にまとめることで、機能が強化されている。

また、へき地拠点病院が、マンパワーの派遣をしているなど、数字的には減っているが、機能的には工夫がされている。

在宅医療に取り組む余力としてどれぐらいあるかの調査では、現在実施している訪問診療件数の1~2割は増えても、何とか対応できるであろうという調査結果を、前回報告した。

現在のところは、何とか回っていると理解しているが、5年も経つと、診療所医師の高齢化が進み、心配な部分がある。

(委員) 市における地域医療提供体制の現状と取り組みとして、「地域医療提供体制を考える懇話会」の開催を計画している。

市内で今、開業をしている診療所や公設民営で運営している診療所等が16施設ほど、且つ、市内に総合病院がないことから、医師会の先生方等に支えられている地域でもある。

市民にとっては、医療機関が近くにあるということで安心感が違ってくる。

16施設のうちで、70代以上の先生が、5人ほどおられるような状況にあり、医療機関の存続については、不安な部分である。

このことも踏まえ、今回、まず開業の先生方に後継者の有無等のアンケートを行い、市の地域医療体制への意見をいただける場を作り、5年10年先を見据えた策を練っていく必要があると考え、今年から来年にかけて開催していく予定をしている。

最終的には、今後の市の医療提供体制を維持するための方針を策定したいと考えている。

(議長) 湖北圏域では、在宅看取りの率が他圏域より高く、全国でもかなり上位に位置することを追加させていただく。

それを後退させることなく、本日お集まりの皆様、各機関などから種々ご尽力いただきお
り、さらに進めていきたい。

議題3 情報提供

- ① 「滋賀県医師確保計画（素案）」「滋賀県外来医療計画（素案）」について（資料6）
- ② 小児救急医療体制ブロック別検討について（資料7）
- ③ 地域医療介護総合確保基金（医療分）について（資料8）
医療機能再編支援業務委託事業について
- ④ 滋賀県医療構想調整推進会議（資料9）

県庁担当者より①について、資料6を用いて報告・説明。

（議長）医師確保計画の多数区域について、正式版が今月末にも出るということだが、外来医療計画でも、外来医師の偏在指標についての情報はどこかに挙がっているか。

（県医療政策課）産科小児科医の偏在指標と、外来医師の偏在指標については、まだ具体的な数字が出ていないので、正直なところ分からない状況。今月末に出るのは、概要図の右上に挙げている数字で、医師の偏在指標のみと聞いている。

（議長）診療所の医師の頭数だけでもって、産科や小児科などの診療科の課題が解決するものではなく、正式版がまだであるということで、ご承知いただきたい。

事務局より、②小児救急医療体制ブロック別検討について、資料7により報告。

（議長）それぞれ自治体では、安心できる子育て支援に尽力いただいている。医療提供側の政策だけで済む問題ではなく、非常に大きな問題である。
医療計画の中で、協議していく方針が出されている。

事務局より、③地域医療介護総合確保基金（医療分）、医療機能再編支援業務委託事業について、資料8により説明。

（事務局）資料8の来年度分提案事業概要に加え、今年度の基金事業に、滋賀県地域医療構想の実現に資する県内病院の機能分化・連携を進めていくために、各病院の経営面での分析が重要であることから、医療機能再編支援業務委託事業として補正予算化され、2事業が県議会で承認された。

1つは県全体。もう1つが湖北圏域の機能再編後の各病院の経営シミュレーションを行い、将来のあり方検討を支援するためのコンサルテーション費用が認められ、今年度末に報告書がまとめられる予定。

全く新しい再編案を提案してもらおうということではなく、従来からこの圏域で検討してきた資料3の図を進めるにあたって、それぞれの機能について、まだ議論の余地があるとして先送りされている部分などを検証するための資料として、コンサルティングをお願いするという趣旨である。

事務局より、12/12に開催される滋賀県医療構想調整推進会議について、報告。

（議長）事務局から連絡事項を。

(事務局) 未確定情報や今後わかってくる情報もある中、圏域として、随時検討の場を設けたうえで、第3回目の調整会議は来年3月12日の木曜日に開催させていただくので、ご予定をお願いしたい。時間は18時から。案内通知は後程、送付させていただく。

(議長) 今回は、3月12日の木曜日、今日と同じ時間の開催です。

今後も引き続いて圏域の将来に適した病院機能の再編を含めた地域包括ケアの推進を段階的に進めていき、同時に、市民啓発や周知についても、どう進めるかを含めて協議をしていくことになる。

(委員) この会議の中では、病院機能再編の話が中心に出ているが、高度急性期、急性期だけが機能として大事な医療ではないということを、市民の皆様にはご理解いただきたい。

救急医療は非常に大事ではあるが、普段の生活の中で、これからの問題になってくるのは、要するに回復期、慢性期を含めた介護であり、歳をとっていかに最後まで地域で暮らせるかどうか、というところが大事な医療となってくる。

この地域医療構想調整会議の中では、そのことを含めて我々は話をしているのであって、病院機能の再編統合、統廃合というと、大きい病院だけの話になるが、そういったことではない。市民の皆様にご理解いただきたいのは、本当に大切な医療というのは、在宅医療や介護であり、急性期病院などに雇われなくなった後にどうなるか、というところが一番大事で、そこに我々は、全てに寄り添える医療をしていきたいということで話をしているということだけご理解いただきたい。

(議長) 地域医療構想そのものが住み慣れた地域で最後まで、それをどう具現化するかということでご議論いただいているので、高度急性期急性期から回復期、慢性期、在宅も含めて、トータルに医療圏域として動いていくべきことを議論する。個別のことを突き詰めていくと、それぞれバラバラに考えがちだが、地域医療、地域包括ケアということでいかにネットワーク強く結びつき、心一つにして、湖北圏域の住民の方々にそういう医療を提供できるかということをご議論いただいていると思っており、今ほどのご発言をいただいた。ありがとうございました。

以上をもって、事務局にお返しする。

(保健所長) 議事進行ありがとうございました。また、委員からのご意見、ありがとうございました。

今回は、とりわけ再検証要請病院が話題になったが、委員のご発言の通り、県の北部地域を担う大変重要な病院であり、ケアミックスを実現できる病院であろうと考えている。

県の保健医療計画にもへき地拠点病院という位置付けがされており、大変重要な病院であるとする。また、調整会議においてもABCのC病院として合意をされている。

ほかに、県の医師確保計画・外来医療計画、小児救急医療体制の議論を行うといった広域医療についてもご報告した。

外来医療計画については医療機器の共同利用などについて、各圏域での協議の場を持っていくということになるので、今後ご意見をお願いしたい。

医師確保計画については、以前、湖北が医師多数区域であるとされていたが、今回、国の再調整で修正され、普通の地域ということで、ある意味安堵をしている。

本日、広域医療についても報告があったが、急性期から在宅まで広い視点での協議を重ねていきたいと思うので、引き続き皆様のご協力をよろしくをお願いしたい。